

令和5年12月定例会 一般質問通告内容

通告番号：1番 通告事項：1/2項目 議席番号：1番 議員名：堀田 一徳

質問事項：有害鳥獣の被害と対策について

農家の高齢化に伴い、耕作放棄地は増加し有害鳥獣は家の近くまで来ている。就農意欲の低下に拍車がかかり自給率の低下に繋がりがねない。栄養豊富な農作物を食い荒らし対応に苦慮している。本町の有害鳥獣の被害と対策について以下の点を尋ねる。

- ① 本町の有害鳥獣による作物別の被害状況とその対策は。
- ② 猟銃、箱罠、くくり罠等での有害鳥獣捕獲頭数は年間何頭か。
- ③ 猟銃免許を持った狩猟者数は何名か、平均年齢は。
- ④ 猪の成獣、幼獣の捕獲奨励金は。
- ⑤ 有害鳥獣の被害対策は、専業農家以外でも対象になるのか。

答 弁：町 長

通告番号：1番 通告事項：2/2項目 議席番号：1番 議員名：堀田 一徳

質問事項：道路整備について

- ① 長崎県立桜が丘特別支援学校前の町道の状況が悪く、走行に支障をきたしている。補修の考えは。
- ② 町道の幅員が狭い道路では、離合がスムーズに行くように側溝の蓋をするなど必要な箇所があるが改善の考えは。
- ③ 町道の横断歩道や道路上の白線点検や補修計画は。
- ④ 本町の職員が業務で町内を往来している時、状況が悪い道路に気づくことがあると思うが、状況を担当課に報告しているのか。

答 弁：町 長

<p>通告番号：3番 通告事項：1／3項目 議席番号：5番 議員名：炭谷 猛</p>
<p>質問事項：石木ダムについて</p>
<p>昭和49年当時の長崎県知事が地元川原郷・岩屋郷・木場郷の3総代に発した、「石木川の河川開発調査結果について(49河開第58号 昭和49年8月26日)」に、「1 一部に見られる脆弱部についても基礎処理工を実施することによってダムの基礎としての問題は解決できる。」、「2 ダム基礎岩盤の透水性(岩の割れ目からの水の漏れ具合)については、一部は大きい透水箇所や湧水箇所が見受けられたが、現在の止水技術をもってすれば処理は可能である」とある。そこで、以下の点を尋ねる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1にあるダムサイトの一部に見られる脆弱部とはどこか。処理はできているのか。 ② 2にあるダム基礎岩盤の透水性について、大きい透水性箇所と湧水箇所はどの箇所にあるのか。これも処理はできたのか。 ③ 歴代の町長の引継ぎの中でどのように継承されてきたのか。 ④ 町長は計画されて50年経過し、いつできるのか見えない石木ダムを、人口減少等の将来を含め、どう対応を考えているのか。 ⑤ 長崎県と佐世保市が川棚町にダムを造るということであるから町長としての責任は免れない。どのように責任を取っていくのか。
<p>答弁：町長</p>

<p>通告番号：3番 通告事項：2／3項目 議席番号：5番 議員名：炭谷 猛</p>
<p>質問事項：付け替え道路について</p>
<p>付け替え道路の計画について以下の点を尋ねる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 嬉野川棚線の県道付け替え工事は全線全幅9.25mとあるが、いつ変更されたのか。 ② 町道川原木場線、岩屋1・2号線、中ノ川内線の幅員等については県との話し合いはどうなったのか。また、町道が長くなれば将来にわたり管理費用が増大するが対応は。
<p>答弁：町長</p>

<p>通告番号：3番 通告事項：3／3項目 議席番号：5番 議員名：炭谷 猛</p>
<p>質問事項：石木ダム建設費用について</p>
<p>石木ダム建設費用について当初の予算は285億となっていたが執行率は69%となっている。工事完成率は3割に達していないと思えるが、建設費用の残りは87億であり、長崎県はこの金額で努力すると発言したとも聞いたことがあるが。工事進捗率から考えて完成するとは100%考えられない。</p> <p>県土木部長は国に増額分を要請すると県議会にて発言しており、予算が追加されれば川棚町にも治水負担分・地元負担金が当然ながらあり得ると思えるが、町長はこのことについてどう考えているのか。</p>
<p>答弁：町長</p>

通告番号：4番 通告事項：1／3項目 議席番号：6番 議員名：辻 清人
質問事項：石木ダムについて
<p>① 9月定例会で、行政と地元3郷の総代と取り交わした覚書の件で質問したが、町長は、前町長の言質をそのまま引き継ぎ、自分もそう考えているとの趣旨の答弁をされた。県の考えを代弁されたが、県や福岡高裁の見解とは違っている。県も高裁も覚書が、無効だと言っていない。間違った認識ではないか。町長の見解を尋ねる。</p> <p>② 石木ダム建設事業について、川棚町には負担は求めない、受益者の佐世保市に負担を求めると当時の知事が明言されている。ダム対策地域振興対策基金は、県5億円、佐世保市が5億円、川棚町が6,000万円出している。この6,000万円は、川棚町民の血税であり、返金されるべきお金ではないか尋ねる。</p>
答弁：町長

通告番号：4番 通告事項：2／3項目 議席番号：6番 議員名：辻 清人
質問事項：子育て世代への支援について
<p>① 6月定例会で、小中学校の給食費無償化の質問に、町長は、段階的に進めると答弁された。子育て世代の方々は、大変注目している。現在どの段階なのか尋ねる。</p> <p>② 子育て世代に対する多様な支援を行う、また、近隣市町に負けない川棚町にすると町長は公約に掲げている。認定こども園や保育所では、子どもをあずかりたいが、保育士が不足している。保育士への支援が川棚町は、他の町より足りないことが原因ではないか。過酷な仕事の割には、報酬が少ないなど要望もある。改善する考えはないか尋ねる。</p>
答弁：町長

通告番号：4番 通告事項：3／3項目 議席番号：6番 議員名：辻 清人
質問事項：海沿いに住む町民の生活と環境について
<p>① 閉鎖性海域の大村湾の海洋汚染が進んでいる現状に、町としてどう対応していくのかが、問われている。水田に使う肥料に一発肥料というものがある。プラスチックの小さな玉の中に肥料を包み込んだもので、水田に撒くというもの。そのプラスチックの玉が、水田から河川や海に流れてマイクロプラスチックになっている。早急に対策を打つ必要がある。町長の見解を尋ねる。</p> <p>② 平島の方々から、満潮で大雨になると側溝から海水が上がってきて大変困っている。側溝を見てみると、ゴミ除けの網だけ設置しており、逆流防止蓋が付いていない。生活の不安を取り除くのが、行政の役割である。町長の見解を尋ねる。</p>
答弁：町長

質問事項：人口増につながる情報発信について

人口減少は本町だけではなく全国的に続いており、少子高齢化社会となった今、人口減少対策は喫緊の課題であると考えます。令和2年度に策定された「第2期川棚町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では人口減少に歯止めをかけるための指針が示されており、その期間が令和6年度までとなっている。

この総合戦略には人口減少の対策として4つの基本目標が掲げられ、取り組まれてきたものと思われる。

そこで、次の項目について尋ねる。

- ① 基本目標2について、「新しい人の流れをつくる」ことも大事である。
本町には地場産業は少ないものの、山あり、海あり、川ありの風光明媚な自然を生かした観光をメインに多くの人を呼び込み、移住・定住の促進にもつなげていけるのではないかと考える。今までの取組はどのように行ってきたのか。また、どのように情報発信に取り組んできたのか。
- ② 基本目標3について、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」についての取組は効果がでてきており、結婚し出産した方からも子育てがしやすい町であることを耳にするが、まだまだ結婚・出産・子育てに関する情報発信が少ないように感じる。本町が暮らしやすい町であることを理解してもらうことが大事であるので、こういった情報発信を充実することで移住定住にもつながると思うがどうか。

答 弁：町 長